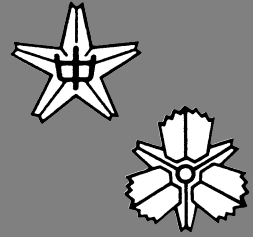




発行所  
〒921 8116  
金沢市泉野出町3丁目10 10  
石川県立金沢泉丘高校内  
一泉同窓会  
電話(076)242 0211  
FAX(076)242 0211  
2002.5.20.発行  
E-mail: issen.knz@hotmail.com



## 659名が集い盛大に 平成13年度一泉同窓会総会

### 創立110周年に向けて

平成13年度の一泉創立108周年同窓会総会ならびに懇親会は、恒例の10月15日午後6時から金沢駅前の全日空ホテルで行われ、今回も順調な議事進行と、盛大かつ和やかな交歓風景が繰り広げられた。平成11年度以来、大挙600人台の参加が続いており、今回も平日にかかわらず659名(申込706名・出席率93%)が出席、幹事期一同から感謝の声が寄せられた。

総会は、小倉周一郎会長(泉丘7期)の挨拶、徳田寿秋校長(泉丘12期)の母校近況報告、正村健三事務局長(泉丘4期)の一泉同窓会・一泉基金収支決算と事業等経過報告、監査報告がなされ、水谷昭副会長(泉丘7期)から、来る2003年の一泉110周年の記念事業についての提案があり、いずれも満場一致、拍手で可決承認された。

### 歓談尽きず、和やかに懇親会

引き続き懇親会では、まず宝生流舞囃子「安宅」が披露された。演者7役の内4役を泉丘OB(小鼓・住駒幸英 10期、地謡・河原清 25期、宮村正雄 30期、北島公之 35期の各氏)が勤め、会場水を打ったように静まり返るなか、伝統の加賀宝生舞台堪能のひとつとなった。



出席者の最長老福田尚造氏(一中40期)の音頭で乾杯、和やかな宴が進められた。お互



いの旧交を温め、歓談はいつまでもつきなかつたが、やがて例年のごとく全員が肩を組み合つての校歌・応援歌の大合唱で、同窓会の雰囲気は一段と高まり、午後9時、一泉同窓会の益々の発展と会員の健勝を祈念してめでたく解散となった。

13年度は泉丘20、21、29、39期が幹事期となつて会の準備、運営に当たつた。2002(平成14)年の幹事期は泉丘21、22、30、40期の方々。

### 一泉110周年記念事業(執行部提案)

- 1) 募金予定額 1,000万円
- 2) 「久遠」像設置 費用約300万円  
木村珪二氏(一中29期)の三部作設置は永年の懸案であった。ちなみに他の二作は設置済みである。  
・昭和17年「練成」像(一中50周年)  
・昭和38年「逆流」像(一泉70周年)
- 3) 遠征用バス買い替え 費用約500万円  
積立て済み240万円、不足分260万円
- 4) グランドピアノ買い替え 約440万円
- 5) 一泉名簿改訂 副会長の水谷昭氏(泉丘7期)を委員長として名簿委員会発足

## 一泉同窓会・事業報告と計画

### 平成13年度事業報告

- 5. 31 同窓会機関紙「一泉」29号発行
- 6. 1 関西一泉同窓会総会
- 6. 16 代表委員会
- 9. 1 一泉行列催行
- 9. 2～4 泉丘高校創立記念祭
- 9. 22 野々市一泉同窓会総会
- 10. 5 関東一泉同窓会総会
- 10. 15 一泉同窓会総会・物故者慰霊祭  
一泉同窓生住所職業等調査
- 10. 19 松任一泉同窓会総会
- 12. 19～24 一泉桜美会美術展

### 平成14年度事業計画

- 4. 3 110周年事業・第1回名簿委員会
- 5. 20 同窓会機関紙「一泉」30号発行
- 5. 12 鶴来一泉同窓会総会
- 6. 1 関西一泉同窓会総会
- 6. 17 第2回名簿委員会
- 9. 1 一泉行列催行
- 9. 2～4 泉丘高校創立記念祭
- 10. 4 関東一泉同窓会総会
- 10. 15 一泉同窓会総会・物故者慰霊祭  
一泉同窓生住所職業調査

### 厳霜碑前で物故者慰霊祭、厳かに

10月15日の総会に先立ち、午後3時から本校前庭の「厳霜碑」前で物故者慰霊祭が行われ、小倉会長、徳田校長ら関係者約30名が参列して、石浦神社の長谷宮司の司祭で、いまはなき先輩諸兄の霊に合掌、ご冥福を祈った。厳霜碑は日露戦争で戦死した金沢一中出身者を慰霊するため、明治41年10月15日に建てられ、一中精神涵養の象徴だった。慰霊祭はこの日にちなんで行われている。



## 一泉同窓会基金 資産および事業内容

平成13年度中間報告

平成13年2月22日現在(単位千円)

財 産 目 録	基本財産	
	百周年記念特別基金	40,000
	公益信託教育振興基金	50,000
	運用財産	902
	同窓会支援金	1,500
	寄付金	20
平 成 13 年 度 実 施 事 業	運用収益	126
	合 計	92,548
	事務費(信託報酬・公告)	357
	一泉賞(表彰生徒数3名)	63
	クラブ活動助成	200
	理数科課題研究助成	200
	国際交流活動助成事業	100
	福祉活動支援	30
	図書購入助成	100
	遠征用送迎バス買替積立資金	300
	通信制パソコン用品購入助成	100
小 計	1,450	
来年度繰越運用財産	1,098	

寄付 中川敏明氏(泉丘20期) 2万円

クラブ活動助成金: テニス道具小屋と移動式防球ネット

理数科課題研究: 特別講師謝礼、実験材料購入  
国際交流活動助成: 韓国高校との交歓、韓国事情学習のための講師謝礼

### いっそうのご活躍を!!

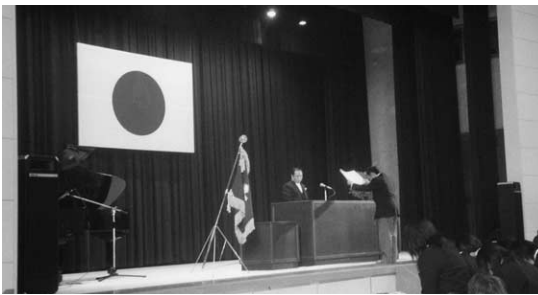
### 2001年度一泉賞

2001年度の一泉賞は全日制は3月5日の卒業式に先立って水谷副会長より授与。表彰基準は2000年度より学校側からの要請もあり、対象が泉丘高校在学中に「全国的な規模で入賞または表彰」という厳しいものであったが、さすが泉丘高校、今年度も二人が推薦された。

一人は陸上競技部長距離の宮川浩太君、国体少

年 B300M 第7位。泉丘駅伝チームのキャプテンとして北信越大会をはじめ、3年間数々の区間賞獲得などの実績を残した。他の一人は理数科の上陽介君、全国高校化学グランプリ2001で金賞を受賞した。全国で902人参加の筆記試験の1次選考会では、石川県ではただ一人突破、2次選考は「合金を含む4種の金属の判定」の実技試験のみごと入賞を果たした。

通信制は3月10日の卒業式で金田すみえさんが小倉会長より授与された。職業（洋裁）と勉学の両立に励んだこと、スクーリング皆出席、学校行事への参加など他の模範であったこと、ボランティア活動など社会人としての貢献が受賞理由。



## 通信制の近況

金沢泉丘高校 通信制 教頭 詠 節子

近年の少子化の進展で、全日制で学ぶ生徒の数は減少していますが、通信制で学ぶ生徒は全国的に激増しており、本校通信制においても、増加する傾向にあります。このため、年度当初はどの教室も満杯の状態、スクーリング時の教室の確保に頭を悩ませている状態です。

さて、入学者は年々増加していますが、内訳を見ますと高校からの転入学や中退者の入学が多くなり、入学動機や学習歴は様々となっています。当然十代の無業者が多く、勤労青少年の多かった時代と様相を異にしております。卒業後は大学、専門学校への進学希望者も多くなり、通信制にお



いても進路指導を充実させることが求められる時代となっています。

このような状況から、本年度は通信制の目標の第一に「進路指導の充実」を掲げ、進路ガイダンス室の開設、進路指導主任の配置を新たに行い、講演会や講習会も開催し、充実を図りました。講演会、講習会には、先輩の皆さんに講師をお引き受けいただき、元気の出るお話やビジネスマナーなどを指導していただきました。生徒はいずれの会も真剣な面持ちで参加し、好評でありました。来年度も進路指導の一層の充実を図って行きたいと考えており、本年度同様、先輩の皆さんのご協力をお願い致します。

## 『一泉弓道史料』まとまる

泉丘高校弓道部誕生に続いて、2001年3月に弓道場が完成したことは一泉29号で述べた。一中の旧弓道部先輩が先ず部復活、次に実技指導、さらに道場建設と情熱をこめて働かれたという経緯から見て、このことは1899年（明治32）に始まり、1945年（昭和20）に一応の幕を下ろした金沢一中弓道部の復活にほかならない。

1900年2月以来の金沢一中の校友会雑誌、校友会誌、校友会会報、37年以来の桜章時報を精査された史料が、井関好一氏（一中53期）によってまとめられた。これは、石川県の旧制中等学校弓道部発祥の歴史を示す貴重な記録である。従来までは弓道部発祥は大正時代とされていたが、その認識を改めるものともなった。

下の写真は、39年頃の雪中における金沢一中生の乾布摩擦の写真である。後方に弓道の的場の平屋の小屋が見える。その向こうの現在も残る土盛が鉄砲的場である。さらに後方が大乘寺山である。射場は写っていない。



## 先輩社会人と語る会 仕事の現場を知る

平成13年10月2日(火)6、7限  
啓泉講堂、1・2年生全員



「社会人と語る会」は、泉丘の後輩生徒が漫然と偏差値輪切りで大学や学部選びをするのではなく、目的意識をもって進学先を選んで行くようにという趣旨で始められた。

今年度は下記の先輩の方々。地道な努力を重ね、新しい研究と職域を切り拓いた先輩の話は注目を引いた。

○植村まゆみ氏(泉丘33期)

堅町商店街振興組合事務局長

街づくりをやりたいという希望で公募に応じて、15年以上続けた大企業のマーケティングの仕事をやめて金沢へリターンしてきた。堅町は“卒業されてしまう街”というイメージを変えるべく、ここへ遊びに来る若者も大人になると寄り付かなくなってしまうという現状にメスを入れようというのが氏の目標の一つのこと。

○坂本二郎氏(泉丘33期)

金沢大学工学部助教授

生物機械工学・医療機械工学という人工関節や脊椎の研究が目標だが、それが地域に根ざすものであること、ベンチャーを起こす革新的なものであることなどから説き起こした。さらにここに至るまでの高校時代の記念祭で養ったチームワークやコミュニケーション、学んだ物理や数学の研究開発面での応用、理系文系に偏らず難解な文章を読んだ訓練等の大切さを説く視野の広い立場からの話であった。特に偏差値より、興味で進路を選べという説得は印象的であった。

○吉田雅英氏(泉丘37期)

県行財政システム改革推進室

県庁の仕事の内容を具体的に紹介。中小企業向けの資金繰りを含めた新製品研究、開発、商品化へのアドバイスなどの話は興味を引いた。最後に、氏の現在の業務である行財政システム改革推進室

について説明があった。中央からの分権化、情報公開、組織の改編、フィードバックシステムなど地方自治体の未来志向の話も出て、業務取組みの重要さに瞠目させられた。

○中村太郎氏(泉丘35期)

中村酒造代表取締役社長

地球環境問題、食糧問題、人口問題など先行き不透明なこの時代に生き抜くために、夢とその実現の思いと志を持ち、人との交わりの中で学び挫折を乗り越え、進んでいくことを力説した。

○神原庸子氏(泉丘39期)

ノーベルインターナショナル金沢支店長

ヘッドハンティングという現代企業の技術・経営の大変動時代における人材紹介業の内容を紹介したが、ここに至るまでの泉丘高校卒業以来の英語習得、外資系企業での異文化接触、アメリカの公認会計士の資格を取得するまでの猛烈な学習、家庭と仕事の両立など、後輩の生徒にとってはこれからの経済社会を生き抜くためのよき体験談が披露された。

## 泉丘高校講演会

### 「スポーツと自立」

吉村豊氏(泉丘17期)

中央大学理工学部教授の吉村豊氏は、昭和38年泉丘高校水泳部が石川県高校選手権と石川県体育大会高校の部で連覇した時の短距離自由形の立て役者。氏は現在は日本学生選手権で7年連続優勝を続けている中央大学の水泳部監督でもあるが、講演は2001年7月13日、折からの暑気の中、啓泉講堂で全校生徒を対象に廃部寸前だった大学の水泳部を最強力チームに育て上げるまでの話から始まった。

講演の主題である「スポーツによる自立」については、いかにメンタルな面をかん養するか、そのため決意すること、自分になるべき姿をイメージすること、自分を知ること、他人を知ること、自分の持ち味を生かし伸ばすことなど、一つ一つ生徒たちをうなずかせながら進められた。

さらにチームの中の人間関係をどう形成して行くか、民主的で自由な環境の中で、チームの構成員が感謝の気持ちを持ち、皆と一体感を持つことはどういう結果をもたらすかを説かれ、聴衆の生徒を魅了した。

夢のある住まい創造をめざす

Success for the woody dream

太田木材株式会社

代表取締役

太田安彦(泉丘17期)

〒920 0211 金沢市湊1丁目48 5  
TEL076 238 4555 FAX076 238 0664

小西獣医科

獣医師  
医学博士

小西喜彦(泉丘17期)

〒921 8164 金沢市久安3丁目512  
TEL(076)243 2430

## スポーツに勉学に 元気な母校

2002年1月25日、泉丘高校は石川県高等学校総合体育大会優秀校として表彰された。1970年代前半までは県内屈指のスポーツ校として名をあげた母校に、久し振りに復活の兆しが見えてきた。

2001年度・男女総合3位は、1974年度以来28年ぶりであり、男子3位は2000年度に35年ぶり、2001年度も3位を守った。

また、水泳部の優勝は1963年度以来の38年ぶりであったが、偶然にも当時の優勝の立役者、吉村豊氏を「スポーツと自立」という題で学校の講演にお招きしてあった。テニスも上位で県内の覇を競う実力をつけてきて、01年度は団体優勝を果たした。登山でも男・女は常に上位だが、この2年アベック優勝である。伝統の陸上男子は総合2位か3位に必ず顔を出し、秋の駅伝男子では3年連続2位入賞が光る。その他の運動部も常時ベスト4か8の好成績を収め、総合成績上位確保を支えている。

運動部のみならず、文化各部の活躍もめざましい。放送や囲碁・将棋は県内最上位を確保、全国大会出場の常連である。めきめき力をつけている合唱は2001年度県高校ボーカルアンサンブルコンテストで、出場10チームがすべて金賞に輝いた。同じく吹奏楽は北陸吹奏楽コンクールで金賞を獲

得した。さらに自然科学諸部は、50年代から70年代にかけて称せられた「科学校泉丘」の伝統に発奮し、2年連続全国高校化学グランプリ最上位に進出するなど往年の鋭気を示している。

心身の発達につとめるといふ校是に従い、大学への進学も課外活動に負けていない。

70年代前半までと異なるところは、全国展開型の進学をしていることである。「志望する大学へ合格できるように指導する」というのが進学指導の合言葉になって久しい。生徒は、大学ブランドに引かれるというステレオタイプではなく、己の個性にあった大学や学部選びをしている。

1999～2001年の3年間の平均を見ると金沢大学合格者数は74であり、県内最多合格数は他校へ譲ることもあるという状況である。その一方で、国立では東京大学は7弱だが、京都は15、東北22、大阪19、名古屋15、神戸13、横浜国大12、北海道8、筑波8というように東西偏らず進学している。私立では慶応20、早稲田28、同志社45と合格している。最近の傾向は東大受験者が少ないことで、2002年は10を割り込み、合格は3であった。

生徒は往時とは比べられないほどの回数のセンター型、記述型、小論文など、型の異なる模擬試験を受け、その結果を学習に反映させる。学校図書館でも受験と関係のない書物を紐解くものは少数で、ひたすら問題集などを広げての学習トレーニングの姿が目立つ。その意味では個性摩耗のはざまに立っているのである。



3年生の野外劇



校内陸上競技大会



整体療術 健友館

館長 越田 昭(泉丘17期)

〒921 8154 石川県金沢市高尾南3 114  
TEL(076)298 8140  
FAX(076)298 9853

金沢仏壇製造・販売

(有)山田仏具店

代表取締役社長 山田 泰造(泉丘17期)

〒920 0854 金沢市安江町13 32  
TEL(076)221 2306  
FAX(076)221 5279

《エッセー》

## 学制改革の頃



北村正夫（一中56・泉丘2期）

昭和20年8月15日正午の玉音放送で戦争が終わり、9月から学校は再開され、勤労働員や軍関係の学校から皆が戻って、一応1～4年生が揃ったが、我々が留守にしておいた間に入っていた陸軍経理学校と農兵隊により、校舎は荒れ果てており、昨日まで「忠君愛国」「米英撃滅」といわれてその気になっていたのに、進駐軍が学校に入り込んできて民主主義を説いても、勉強にも身が入らず、空きっ腹を抱えて何となく通学していた。

昭和23年3月、旧制中学は閉校と決まり、私たち4年生は、一中56期生として繰り上げ卒業するか旧制高等学校に進学するか、新制高校2年生に進級するかの3肢の1を選ばねばならなくなり私は新制高校を選んだ。

昭和23年4月、六三三の学制改革が実施された。新制高校は原則的に、総合学科制、男女共学、小学区制と決められていたが、23年度に限って金沢地区で県立普通科が試行的に3高校作られた。

金沢第一高等学校...一中校舎に一中、二中、三中を統合して男子のみ

金沢第二高等学校...一高女校舎に一女、二女、職業女を統合して女子のみ

金沢第三高等学校...二高女校舎に男女共学の実験高として希望者

金沢一高は金沢の普通科の男子生徒の殆どの1,580名が集まり32クラスの大部隊となり、特別教室も全部普通教室として使われることになった。

四高の教授から金沢一高の校長になられた大河良一先生（一中26期）は、自治と自由を尊重する校風をつくろうとされたが、金沢のヤンチャモンの寄せ集めであったため、愛校精神も勉学精神も少なく、授業妨害、喧嘩、喫煙、エスケープが日常的に行われていた。あの泉の原の航空母艦といわれた立派な校舎は一年で荒れ果ててしまった。

昭和24年4月、進駐軍の強い指導もあって高校3原則が実施された。私は自宅が寺町なので金沢泉丘高校3年生に編入した。男女共学も始まり女子用のトイレも作られた。HR（ホームルーム）と称する組分けがなされ、我が1ホームの担任は長井金二先生で男子28名、女子7名の小人数で纏まっていた。HRは文字通りホームで、朝の朝礼時と昼食時に級友と一緒にいるだけであった。授業は単位制で、単位数の合計が卒業習得単位数に達するように、自分で受講科目を選択し、自分で時間割を決めることができた。時間割に従って講義室を回って歩くわけで、最初は戸惑ったが、毎時間周りの人も変わり、2年生と机を並べたり、男女共学もからんで結構楽しく受講することができた。金沢一高時代の殺伐さに比べると様変わりの明るい雰囲気为学校となり、破壊され荒れ果てた器物や校舎も回復された。

男女共学、HR数25の泉丘高校は、クラブ活動も盛んに行われ、遠足、運動会、文化祭など、楽しい行事も行われて、1年間だったが、思い出に残る最後の高校生活であった。

## 校歌制定の頃




金子 豊（泉丘4期）

昭和26年、私の3年生の夏休みに入る数日前、生徒会顧問の任田秀雄先生（英語）の仰せ付けで金沢大学教授の大澤衛先生（一中29期）のお宅に校歌の歌詞をいただきにお伺いしました。

「見はるかす加賀野の果てに日本海青くかざろふ.....」を拝見した途端、その現代的な音の響きが、胸にこだまし、豊かな色調がパーッと目に浮かびました。なにしろこの校歌でも、漢文調で格調は高いのですが、私のような音痴でも歌えるような曲調のものばかりでしたから。

当時の泉丘高校は学制改革の余波を受けての3年目、初めての男女共学の寄り合い世帯でした。県下第一の秀才校金沢一中出身者が主流を成して

加賀の菊酒 

# 萬歳樂

代表取締役社長 小堀幸穂（泉丘17期）

株式会社 小堀酒造店 〒920 1212 石川県鶴来町本町1丁目ワ47番地

TEL(07619) 31171(代) FAX(07619) 3725 http://www.manzairaku.co.jp

いました。私のような他の中学出身や、女子学生は、一中の校歌をそのまま校歌としていましたから、出来の悪い弟や妹が、賢兄のオサガリをいただいているバツの悪さ、具合の悪さを感じていたものでした。

私のクシャクシャになった顔をごらんになって大澤先生も「本当に嬉しそうですね」と言われました。作詞のお願いには教頭先生がお伺いし、取りに来たのが生徒だったものですから、興味がありだったのでしょうか。「重畳づく...ですか」とルビに声を張り上げたものですから、その頃珍しいお菓子のお代わりにありつけました。

これで、俺も泉丘生になったもんだと実感しました。嬉しかったですね。新しい革袋には新しい酒です。私を指名された任田先生のご配慮の一端に触れた思いでした。

「若人の魂を融かして

きよらかに海へとそそげ」

こうして、私たちも渾然一体、魂をとかして大海へと、旅立ったものでした。

## 私と台湾

和田 哲(泉丘41期)

96年12月、2年9か月勤めた会社を辞め、台北にある台湾師範大学中国語センターへ留学した。ここで1年間中国語を勉強した。その間生活費を稼ぐため日本語塾教師の仕事始めたが、その後3年半の間、その仕事で台湾に居座ることになった。台湾は現在日本と外交関係はないものの、経済を中心に密接な関係にあり、日本から入ってくるモノや情報の量も非常に多いため、日本語を勉強する人がとても多く日本語塾も多い。第2外国語として日本語課程を設けている高校もある。

私が教えていた日本語塾には、中学生から高校生、大学生、社会人、専業主婦に至るまでいろいろな生徒が来ていた。ここで私が感じた日本人との大きな違いは、台湾の人は相手に対してあまり距離を置かないで接するということである。授業の休み時間、初めて顔を合わせた生徒どうしが年令や性別に関係なく、自然におしゃべりを始める。学生と歳の離れた社会人の生徒がお互いに「学校



はどこ?」「どんな仕事をしているの?」「日本語勉強してどのくらい?」などと聞き合うことに始まり、日本語学習上の問題から時には政治の話にまでどんどん展開していく。先生である私に対しても初対面から、「どうして台湾に来たの?」「台湾好き?」「彼女いる?」などズバズバ聞いてくる。最初の頃はあまり慣れなかったが、だんだん台湾人ならではのフレンドリーさであると思えるようになって来た。知りあって間もない生徒からよく食事に誘われたり、家に招かれたりする。授業中以外は「先生と生徒」ではなく「友達」といった感じで、彼等の輪のなかに自然に溶け込んで行くことができた。中国語に「教学相長」という言葉がある。教える側もまた教わる側から学び、互いに成長するという意味だが、毎日がこの連続だった。

來台2年目からは台湾南部の地方都市嘉義市の分校に赴任した。金沢出身の八田與一(一中11期)技師が設計し建設監督をした烏山頭ダムまでは、車で約50分の距離である。八田技師は日本統治時代に烏山頭ダムと灌漑水路をつくり、不毛の大地だった嘉南平野を緑豊かな穀倉地帯にした。

八田技師の命日である5月8日には毎年「嘉南農田水利会」の主催により墓前法要が開かれる。金沢からも毎年「八田技師を偲び嘉南と友好の会」の方たちが来られ、墓前祭に参列し、嘉南の人々との交流を深めている。私も会の事務局長の中川外司氏(泉丘8期)のお計らいで、2度参列させて頂いた。故八田技師への感謝の気持ちを忘れない心暖かい台湾の人々に心から歓迎され、彼等と触れ合う感動を味わうことが出来たことは忘れられない。



うるおいの家づくり

株式会社 嶋源木建

代表取締役 嶋谷潤一郎(泉丘17期)

〒920 0357 金沢市佐森森町イ132番地1  
TEL(076)267 1124 FAX(076)268 2758  
http://www.success21.com/shimagen-lifa  
E-mail: shimagen@nyc.odn.ne.jp

石川県損害保険代理業協会会員  
(有)渡辺総合保険事務所

所長 渡辺 満(泉丘17期)

〒921 8036 金沢市弥生1 31 26  
TEL(076)280 1166  
FAX(076)280 4109  
E-mail m-wat@po.incl.or.jp

## 2000年代の旅立ち

### 【関東一泉同窓会総会】

2001年度関東一泉同窓会総会は10月5日(金) 大手町サンケイプラザで開催された。

幹事期は泉丘22期、出席は経済の厳しい環境にもかかわらず、178名、一中42期から泉丘53期までの65年の年令幅があるのは伝統校ならではの思わせる。金沢からは、徳田寿秋校長、普神貴行、水谷昭副会長、正村健三事務局長の4人が出席。

「2000年代の旅立ち」をタテ系に、「懐かしき金沢」をヨコ系に織りなして、語り合い味わって頂こうという趣旨で始まった懇親会は盛大に進行。冒頭の鏡割は加賀辰の口の銘酒「福の宮」。ヨコ系の飲食店や商品の提供企業は、一泉OBが役職を務める大和百貨店、中村酒造、宮本酒造、車多酒造、宇野甘源堂、四十万屋本舗、能作、いずみや兄弟商店、清風荘、天狗中田、宮本産業、他に埼玉県から斉藤写真館、東京ではサンケイ新聞であった。参加者全員近來特に名高くなってきたふるさとの味を楽しみ、喜んで土産に持ち帰った。



### “本籍金沢”のふれあい

### 【平成13年度関西一泉同窓会総会】

6月2日(土)大阪・城見パノラマビアレストラン。

金沢からは恩師清水隆久先生、中村順吉教頭(泉丘12期)、普神貴行副会長(一中56・泉丘2期)、水谷昭副会長(泉丘7期)、正村健三事務局長(泉丘4期)が出席。会員出席は70名余と例年より少なめで、景気低迷の故かと反省があった。一中の先輩も10数名と年々減少の傾向。

神戸に50年住まわれる斉田直行氏(一中55期)がエッセイ集『本籍金沢』を出席者に寄贈された。氏の父上は戦前から戦後にかけての金沢人ならだ

れでも知っているあの詳細正確な「金沢市街地図」の製作者の池亮吉氏(一中20期)。この総会・懇親会は「本籍金沢」人の触れ合いの場、和気藹々のうちに進行。

昔、泉丘高校の社会科の熱血授業や生徒指導で鳴らされ、現在は日本近世史農業分野の権威である清水先生も昔の教え子たちとの邂逅を満喫の様子だった。



### 和気あいあい

### 【平成13年度松任一泉同窓会総会】

松任一泉同窓会総会並びに懇親会は10月19日(金)グランドホテル松任で開催された。学校から徳田学校長、本部から水谷副会長、正村事務局長が出席。今年には泉丘高校水泳部が38年ぶりに高校総体で優勝したという学校長の報告に、金沢一中時代以来、競泳や飛び込みの名選手を輩出した松任地区だけに、ひとしきり話題が広がった。参加者は50人余で総会の後の懇親会は料理に舌鼓を打ちながらの和気藹々で過ごした。同じ週内に開催された金沢の一泉同窓会総会とぶつかったこと、直後に松任市議選を控えていたこともあって、出席は例年より少なかった。



KAMIO GROUP  
HAIR & ESTHETIQUE  
KAMIO CION  
ヘア&エステティック/カミオ・シオン

富田 征子 (泉丘12期)  
新田 千鶴子 (泉丘18期)

野々市町本町6 397  
FreeDial 0120 00 5016  
closed 毎週水曜・第3火曜

ピアノ デザンジュ  
Piano des Anges

東海林 也令子 (泉丘18期)

〒920 0947 金沢市笠舞本町1 6 39  
TEL・FAX 076 222 2053  
URL <http://homepage2.nifty.com/pianodesanges/>

建設コンサルタント・一級建築士事務所

(株)東建コンサルタント

代表取締役 長元正春  
(泉丘18期)

本社 東京都新宿区新宿2 15 27

TEL 03 3351 3131(代)

FAX 03 3351 3172

営業所 前橋市、さいたま市、横浜市、三島市



## 【平成13年度野々市一泉同窓会総会】

野々市一泉同窓会は平成13年9月22日(土)金沢国際ホテルで、72名を集めて11年ぶりに開催された。

新会長に選ばれた小西芳夫氏(一中53期)の就任挨拶は力強さに満ちていた。ナンバーワンたれ、先頭を走れという一中精神から説き起こし、金沢一中校歌の名句から引いた「世の荊棘を拓くべし」という参加者を奮い立たせる内容で、テロや不況の暗雲の立ちこめる時局にふさわしいものであった。宴会は最長老大森玄衆氏(一中35期)の乾杯で始まり、坂本六郎氏(一中42期)の万歳三唱の音頭で終わった。

野々市一泉同窓会が一泉創立90周年の時、初代野々市市長故山下貞雄氏(一中56・泉丘2期)らが植樹されたソメイヨシノ6本は、若く元気で、開花時学校を囲む見事な桜並木の一環をなしている。



## 【三馬同志会総会】

平成13年6月25日(月)三馬同志会第13回総会が金沢ニューグランドで開催された。

開催に先だち、吉岡康暢石川県歴史博物館館長(泉丘5期)による金沢城についての講演があった。発掘調査と資料考証に基づいた内容で、尾山御坊時代、戦国末期、藩政時代へと積み重ねられた城の構造や、門前町、城下町の造りがよく分かり聴衆の感動を誘った。

総会では12年9月に逝去された小村久信会長(一中53期)の後を受けて新役員を選出が行われ、新会長に松村晴夫(一中57・泉丘3期)、副会長に井村長祝(同)、杉村靖夫(一中58・泉丘4期)の各氏が決まった。

出席は27人であったが、懇親会は和やかな談笑で進み、一つの校下のまとまりの良さを思わしめ

た。後半、野崎実氏(一中50期)、山本道生氏(一中54期)による一中時代の応援歌メドレーが会を盛り上げた。



## 【第13回泉泳会を終えて】

2年に一度の泉泳会は、平成13年8月13日午後から宵にかけて、13回目を盛会のうちに終えることができました。今年はカーニバルとしてはじめていろいろなイベントを織り込み、子供連れもいて大変賑やか、和やかな雰囲気でした。

イベントでは和式泳法清記流矢野派師範の石田健氏(泉丘4期)の大旗振りの素晴らしい技に皆感動し、オリンピック出場経験のある大崎剛彦氏(泉丘9期)の模範泳法にいつもながら魅了されるひと時でした。

総会、懇親会には徳田寿秋泉丘校長(泉丘12期)、千木良一水泳部顧問(泉丘23期)が参加され、今年の水泳部の総体優勝という大活躍が話題になり宴席に花が咲きました。また今回新たに名簿を製作することになり、予算が計上されました。次にこの冊子に水泳部の歴史、記録などを掲載したらどうかという意見も出され、林繁夫会長(一中44期)を中心に編集作業を進めることになりました。その節には、皆様方からの出稿も募りたいと思います。次回は第14回で平成15年の開催予定になります。更に、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。 石田憲二(泉丘18期)



不動産売買・仲介

 (株) **コスモフィールド**

代表取締役 **山本 耕作**(泉丘18期)  
取締役 **山本 星子**(泉丘18期)

東京都渋谷区渋谷3丁目27番15号  
光和ビル7階  
fone:03 3486 7151 fax:03 3486 7152

日蓮宗旧蹟充治園

妙布山 **立像寺**

住職 **福井 清周**(泉丘18期)

〒921 8033 金沢市寺町4丁目1番2号  
併設 社会福祉法人 すみれ保育園  
TEL 076 241 2032(寺の方)  
TEL 076 241 1932(保育園)

機械と工具の総合商社

株式会社 **畝田商店**

代表取締役 **畝田 利隆**  
(泉丘18期)

〒920 0348 金沢市松村6 149 1  
TEL 076(268)5353(代)  
FAX 076(267)4614

# 同窓生の集い

## 【一中42期（昭和10年卒業）十桜会】

日時：平成13年10月17日 場所：湯涌

金沢一中昭和10年卒業の十桜会は、今回の第30回大会の湯涌総会で幕引きとすると、古沢英雄幹事から報告があった。この期は恩師の動向に常に配慮し、必ずご招待した。仲間内でも御夫人共々参加される仲のよい会であった。今回も、恩師の藤田誠一先生（一中33期）ご夫人が招待され、出席者数42人のうち15人が夫人で感慨ひとしおの一日となった。会誌「十桜」も30号と回を重ね、最終号となった。編集子の言葉として「十桜会の幕は引かれても、誼の続く限り、友情の幕は下りません。また会える日に望みを託し、あの時あの頃の交友の数々を思い出し、残り少ない命を大切にしましょう。誇りある十桜の友は一人でも失いたくない。涙をこらえてこのペンを擱く。」とあった。（幹事・古澤英雄）



## 【一中43期（昭和11年卒業）関東四三会】

日時：平成13年10月24日、場所：「椿山荘」

昭和11年金沢一中を卒業、関東方面に在住する同窓生でつくる金沢一中西三会では10月24日東京駅地下「椿山荘」で秋の集いを開いた。最近では会員も減少し、残存僅かになってしまった。内例年の出席者は9名前後だが、京都在住の長岡寛厚君が必ず上京参加して会を盛り上げてくれるので一同喜んでいる。

一同懐かしい一中時代の良き時代の昔話に花を

咲かせての楽しいひとときを過ごし、次回の再会を約して散会した。（松林記）

出席者 河毛二郎（関東一泉同窓会会長）

島誠夫、長岡寛厚、野村誠夫、橋場堅、藤田正辰、村本健次郎、吉村清三、松林理彦、以上



## 【一中47期（昭和15年卒業）十五桜会総会】

4月10日兼六園の桜が満開の夜、金沢全日空ホテルにおいて、21世紀初めての十五桜会総会が開催された。

当初は31名出席の予定であったが、体調不良等により5名の欠席があり、関東5名、関西4名、北陸17名計、26名が出席した。

昨年は同期生4名（辻定美君、熊埜御堂裕君、寺治夫君、清水省三君）が他界、心から冥福を祈った。

久しぶりに出席した千葉県池田亥左夫君の音頭で乾杯に入りフランス料理の正餐で歓談に入った。途中「ハワイアンフラダンス」の余興を楽しみ、同期生のハワイ在住の玉代勢君を偲んで話題になった。

来年の十五桜会は、鎌倉で開催することに決定した。最後に上田栄一君のハーモニカをバックにして声高らかに校歌を斉唱して散会した。

2001年の出席者は次のとおり。

関西 今井晋夫妻、木村和義、元田隆

関東 池保夫妻、中島章、新田正之、池田亥左夫

北陸 飯田久、石崎幸男、石橋鎌造、上田栄一、

大蔵吉夫、大森俊夫、大屋信之、北川伴次、

木村久吉、島村隆、鈴木信義、中條英一、

中村吉次、縄野茂信、西野知一、松林禧作、

三須徹、以上26名（大蔵吉夫記）

形成外科・整形外科・皮膚科  
（スポーツ医学）

### 北山クリニック

院長 北山 吉明（泉丘18期）

〒920 0852 金沢駅前東京生命ビル3F  
（此花町7 8）  
TEL 076 263 2400

JR 金沢駅正面  
= ご宿泊・ご宴会 =

### ガーデンホテル金沢

支配人 石田 憲二（泉丘18期）

〒920 0853 金沢市本町2丁目16 16  
TEL 076 263 3333(代)  
FAX 076 263 7761  
http://www.gardenhotel-kanazawa.co.jp

産科・婦人科・内科

### 丘村クリニック

丘 村 誠（泉丘18期）

〒920 3124 金沢市荒屋1 87  
TEL 076 258 6116  
FAX 076 258 6211  
E-mail: okamura@kma.jp



### 【一中50期（昭和18年卒業）総会】

平成13年度の総会の一部の会員の希望もあり、南紀白浜温泉の「ホテル古賀の井」で11月15～16日に行った。関東方面からはやや遠く、出席者が多く来てもらえるかとの杞憂もあったが最終的には20名が参加した。

定刻には全員会場に到着し、一風呂浴びて温泉気分を満喫し、総会場大広間「奥千丈」に集合した。記念写真撮影に始まり、西坂弥三郎会長が挨拶、経過および会計報告を行った後、懇親会に入った。皆久し振りの歓談に余念が無い。喜寿も間近い年齢ながら、次第に学生時代に戻った気分四方山の話に時間の経つのも忘れて和やかに過ごした。最後に、全員で校歌を斉唱して中締めとしたが、各部屋での二次会も盛況で、深夜まで続いたところもあった。

翌16日、定期観光バスでホテル前を出発し、南紀でも珍しい快晴に恵まれ、コースを巡る。円月島を右に見ながら白浜海岸を走り、千畳敷、三段壁と進む。自然の風景は昔と変わらないが、街の風情は目を見張る思いだ。

各種の花の咲き乱れるハマブランカ（熱帯植物園）白浜の全景を一望できる平草原へとバスは走る。とりわけ皆の興味をひいたのは、グラスポートによる海中公園の見物であった。円月島付近に船を浮かべての海中の探索には、皆子供に帰ったように躁いでいた。最後に海産物問屋（とれとれ市場）に立ち寄り土産を買い求め、白浜市場で解散した。

出席者 浅井敏郎、市野孫之丞、大森三郎、改田直己、勝田 博、小中伸夫、杉山直弘、高田外代次、橘 喬、寺田 猛、中村成壽、西坂弥三郎、新田史郎、深見外志治、藤野正行、松江重隆、宮村孝夫、宗守弘雄、安原一男、山本一夫（宮村記）



### 【一中51期（昭和19年卒業）一桜会総会】

日時 平成13年 5月24日～25日

場所 山代温泉（葉渡莉） 参加人員 33名

今年は宮会長が所要の為出席不可能となったのは残念だったが、清水譲介君のように卒業以来始めてきた人もあり、喜びも一入であった。午後6時に全員の記念撮影を行った後、幹事を代表して宮林君が開会の挨拶、一桜会の現況の報告を行った。続いて物故者77名に黙祷を捧げた。その後、石田豊・宮太郎・竹田徳太郎の四君が、平成13年春の褒賞および叙勲の荣誉に浴したことが報告され、宮林幹事が心からの祝意を述べた。引き続き関東代表の中井泰一郎君が乾杯の音頭をとり酒宴に入った。盃を傾けながらお互いに元気で再会できた喜びや、往時の思い出、近況等に花を咲かせあつという間の2時間余であった。終宴近くになり、往年の応援団長吉岡清君の音頭で“南征の調べ・桜が森・香雲等応援歌そして校歌”と熱唱が次々に繰り広げられた。旗を振る力強さ、音量等どれもが、心意気とは裏腹に年相応の衰えを見せていたが、だれもが精一杯歌い、まだまだ、かつての桜章健児の残映が色濃く感じ取られ、51期生尚盛んなりの感を深めるものであった。最後の関西代表宮野良雄君の発声で一桜会の万歳三唱をし室尚幹事の挨拶で閉会した。

尚、来年は51期生の大多数が喜寿を迎えるので「喜寿を祝う記念大会」として地元金沢での開催が決定された。

出席者 33名 関東 和田静夫、朴木春夫、中井泰一郎、清水譲介、北中久一、平松工人、東海 越村吉郎、大森三郎 関東 水落 出、宮野良雄、高村謹次（夫人同伴）岸本 孟、中山達夫、葛西義隆

地元 寺中吉造、野田邦夫、石田豊、金森義

### 千代野建設株式会社

CHIYONO

代表取締役 福田 裕（泉丘18期）

松任市倉光6丁目25番地  
TEL 076 274 2121



リフォームプラザハートフル

松任市幸明町270 アピタ内  
TEL 076 274 6733

### (有) 石川スプレー工業

代表取締役 和田 高明（泉丘18期）

鶴来本社  
〒920 2166 石川県石川郡鶴来町桑島71  
TEL07619 3 3688 FAX07619 3 2182  
野々市営業所  
〒921 8802 石川県石川郡野々市町押野4 82  
TEL076 246 8661 FAX076 246 8651



山本 治好（泉丘18期）

松任市布市二丁目7ㄨ 若宮公園前  
TEL 076 275 0354  
FAX 076 275 7585

飯森又郎(夫人同伴)、太田一雄、横井衛、松本実、吉岡清、木下純治、島田徳三、清水三外、小畑四郎、川原善一、園部哲三、竹田徳太郎、中野利男、室谷与三松、宮林和彦

一方、関東泉寿会も1月27日、東京錦糸町「ロッセプラザ」で新年例会を開き、金沢からは本部役員2人も参加、友情を暖め合った。

(中山一郎記)



### 【泉丘10期(昭和33年卒業)総会・新年会】

泉丘10期卒の泉寿会は活発な活動を続けている。還暦を過ぎての総会・懇親会は、規約改正後、初となる2年に一度の総会・懇親会を昨秋の9月24日、片山津温泉の「ホテルせきや」で開いた。



地元をはじめ関東、関西支部からもかけつけた54人がおおいに飲み、歌い、語り合った。翌25日は23人が白山カントリーでゴルフを、15人が周辺観光で北前船の里や、前田家ゆかりの実性院などを訪ね楽しい二日間を過ごした。

また年明けの1月12日には恒例の新年会を「メルパルク金沢」で開催、56人が出席した。



### 【泉丘12期(昭和35年卒業)還暦記念緑窓会】

平成13年10月13日、金沢市橋場町の「金城楼」で、還暦記念の同期の集いを開催しました。

12期「緑窓会」は、泉丘の二代校長山本外吉先生の命名になるもので、ご生前二度この会に参加いただいたこともなつかしい思い出です。

卒業以来すでに41年が経ち、我々が在学した頃、菜の花畑が広がっていた校舎周辺の田園風景も、いまは住宅の合間にマンション、レストラン、大型店舗などが建ち並び近代的な郊外風景へと変貌。五階建ての現校舎を囲む緑の木立ちに往時をしのび、感慨ひとしおの昨今です。

今回の緑窓会は、還暦という人生の大きな節目を迎えた我々が、過ぎてきた日々と将来を展望し、互いの友情を誓い合うために開催されました。

秋の一日、地元金沢をはじめ全国から108名が参加し、なごやかに開会。林勝氏の司会で、泉匡隆幹事が経過報告をし「還暦といわれても、まだ遠いことと思っていたせいか、なかなか実感がありません。同期の仲間(529名)中、35名がなくなられ、彼等もさぞこの会に出たかったらと思う。」とあいさつ。全員起立してなき友の霊に黙祷を捧げ、ご冥福を祈りました。卓上には吉田外志雄氏(酒造)提供の美酒「手取川」があり、東京から駆けつけた村上与恵さんの音頭で乾杯、芸妓さんのあでやかな祝言の舞で開宴となりました。それぞれの近況や懐旧談に花が咲き、中には卒業以来初参加の人も、たちまち昔に帰っての話に熱が入る。最後は全員が肩を組んでの校歌応援歌の大合唱で盛り上がり、午後八時半、互いの健康と

エコクリーン整備・車検  
地球にやさしい整備

**㈱東川モータース**

東川 政一(泉丘18期)

〒920 0064 金沢市南新保町18-1  
(県立中央病院前)

TEL(076)238-3338 FAX(076)238-7477

E-mail: hgskw@po.incl.ne.jp

医療法人社団

**新村病院**

院長 新村 康二(泉丘18期)

外科・胃腸科・整形外科・内科・循環器科・呼吸器科  
リハビリテーション科・肛門科

〒920 2104

石川県石川郡鶴来町月橋町722-12

TEL(076)19-0100(代)

FAX(076)19-0019

石川県自動車整備振興会が主催する安心の

石川県中古車情報ネットワーク

http://www.jssnet.ne.jp/cyukosya/

**㈱北陸システムセンター**

板谷 民洋(泉丘18期)

〒920 0018 金沢市三口町火302番地

TEL 076 238 5267(代)

FAX 076 238 0262

次なる再会を約して散会。二次会へと会場を移し、交歓の楽しさは尽きませんでした。

会に先立ち、同日午前中は片山津で親睦ゴルフ会も行われました。

また、旧29ホーム有志の「第3回福トンボ会」も開催され、市内稚日野町のレストラン・オオタで、担任の故高橋正行先生夫人慶子様を囲んで、クラスメート18人が懐かしい思い出話にひとときを過ごしました。12期の変わらぬ友情をあたため、還暦のよき記念の会となりました。



(12期 福トンボ会・還暦の集い)

### 【泉丘18期(昭和41年卒業)おはこ会】

卒業して35年、男子も女子もそろそろ孫ができる年頃です。9回目を迎えた同窓会を今度は泊りでということで、2001年8月10日に山代温泉「雄山閣」で一泊し、湯けむり、湯ったり、湯のなかで開催しました。やっぱり“おはこ会”当然懇親会は普通じゃない。司会者に注目！懐かしい学生服の白髪(訂正:ゴマ入り)の男子とボタンがちぎれそうな豊満な胸の女の子...「ただ今よりおはこ会第9回同窓会を...」。しかし皆の視線は二人の姿にくぎ付け、35年前の制服は当時のままだが、体型は随分変化しておりました。女子のスカートはちぢんで(そう書いておこう)サイズが合わず、上着のみとなりました。

出し物の部では、日本舞踏と金びか羽織袴の演歌に会場は大喝采。その後のクラス紹介にも、旧友がそれぞれ一言を発し、楽しい一日となりました。宴会は、2時間の予定が3時間となり、さらに有名なダンスホールに移っての二次会は、楠先生、安高先生にも最後まで参加していただき、大盛会となりました。それでも話し尽きなくて、朝まで討論となった部屋もあったようです。女子は10名の参加でしたが、35年振りに話した秘話があったとかなかったとか、朝には、35年後の現在に



返り、それぞれの帰途についたのです。(福田記)

### 【泉丘18期(昭和41年卒業)関東おはこ会】

2001年6月2日は、関東在住の泉丘18期生にとって記念すべき一日となりました。我ら18期生は「おはこ会」の名称で金沢を拠点として同窓会活動を行っております。ほぼ3年に一度、総会、懇親会が開催され、数多くの同期生が集まりますが、関東在住の会員にとっては、金沢での同窓会に出席することは意外と大変なものでした。関東においても手軽に同窓会を開けるようにしようと『関東おはこ会』なるものをつくり、第一回の開催に至ったわけです。

当日は金沢からの「おはこ会」幹事3名(一泉同窓会副会長・荒磯千舟氏、18期代表委員・川合明子氏、第9回おはこ会幹事代表・福田裕氏)を含めた50数名が新宿「ホテル・センチュリー・ハイアット」に集結しました。卒業以来の顔合わせ同士も多く、話題も気持ちも一挙に35年前に遡り、懐かしく楽しいひとときを過ごすことができました。忘れていた金沢弁もぼんぼんと出て、金沢の雰囲気一色になり、あっという間の3時間が過ぎ去りました。大勢が2次会に流れ、「次回はいつだ」「今度はあいつに会いたいな」などと怪気炎を上げ、終電時間を気にしながらも、日付が変わるまで話の尽きることはありませんでした。

「関東おはこ会」ができたきっかけの一つに1997年度の関東一泉同窓会の幹事を任せられ、会の開催運営を行ったときの再会の喜びがあったからだと思います。関東一泉同窓会に感謝！感謝！お礼を申し上げます。

尚、懇親会に先立って行われた総会において、関東おはこ会・会長に長元正春氏、副会長に山本星子氏、事務局長に勝田良蔵氏満場一致で任命されたことを附記しておきます。(勝田記)



## 第29回一泉桜美会美術展・スケッチ展

2001年度は美術展とスケッチ展が同時開催となった。12月19日～24日の日程で美術展は名鉄丸越のスカイギャラリーで53点、併行開催の尾張町の文真堂で14点が出品された。

会員の多彩多様な個性に毎回大いに啓発感嘆させられるのがこの美術展の特色である。名誉会員の堀義雄氏の彫刻「女の炎・愛・愛」の造形と赤と黒のコントラストの不思議さに足が止まる。パンフラワー「メリー・クリスマス」の精巧さに目が釘付けになる。洋画、パステル画、日本画、水墨画、書、写真、組紐帯絞、染色、版画、俳句短冊、押し花絵、大樋茶碗と一つ一つ多種多様な力作が並び、楽しめる。スケッチ展は輪島一泊旅行の海を画題にした作品等が主題で人目を引いた。

この「美の同窓会」出品者は泉丘20～30期代となるとほんの2～3人である。是非若い層も参加して伝統あるこの会に新しい酒を注いでもらいたいものだ。



### 「桜美会小品展」も

2001年5月3日から9日まで、一泉桜美会会員による「桜美会小品展」が、金沢市下本多町のエルフ金沢ギャラリーで開かれ、日本画や油彩画、水墨画、写真など、いずれも力作揃いの43点が並べられました。会場を訪れた美術愛好家らが、作品に見入りながら歓談するなど、今回も好評の「小品展」となりました。



## 前関東一泉同窓会会長

### 浦茂氏(一中34期) 逝く



1983～93の間、関東一泉同窓会会長をされた浦茂氏が2001年11月18日に逝去された。氏は陸軍大学の御賜の軍刀組であり、戦後は自衛隊の航空幕僚長を務められていた。以下義弟近藤修氏(一中53期)から寄せられた逸話

である。

「日本刀危機を護る」

終戦時大本営陸・海軍参謀であった浦中佐は、すべての武器を進駐軍に引き渡す大本営連絡委員になった。この武器の定義の中に従軍将兵所有の日本刀だけでなく、一般芸術品の日本刀まで含まれていた。「刀剣は封建的、軍国主義の表徴につき全て破棄せよ」との指令が出され、連合軍の厳しい「刀狩り」が始まり、当事者として無条件降伏の無情さを痛感させられることになった。

GHQ幕僚たちには、日本軍との白兵戦の経験者も多く、日本刀には異常な恐怖と憎しみを抱いていて、芸術的価値を納得させるには厚い壁があった。当時、浦氏はGHQに通いづめで、「また来たか」と警備のMPから足下に威嚇の拳銃射撃を受けたこともあったという。しかしその努力の結果、1945年10月24日、「日本人の所有する美術品の・骨董品の刀剣は審査の上保管を許可する」という指令変更が発せられ、日本刀が文化財として保存できる道が開け、日本刀が生き返った歴史的な日になった。

浦氏の「御賜の軍刀」も家族の疎開先の金沢で押収されてしまった。しかし奇しくも1986年「日本刀剣保存会」の尽力でシドニーで発見され、41年ぶりに本人の手元にかえった。

### 一泉桜美会 事務局

金沢市香林坊 1 2 40

TEL076 223 1444

FAX076 264 2403

藤井 肇(泉丘4期)・判 三教(一中57期)



## 一泉文庫の中から

### “この目で見たロシア革命”

一泉文庫に新書判で『この目で見たロシア革命上・下』がある。表紙裏に「謹呈同窓会文庫御中第18回卒業生島野三郎」とある。

1911(明治44)年、石川県知事李家隆介は日露貿易に必要なロシア語習得のために、県内中学卒業生から選抜した3人の県費留学生を送りだした。その中の1人島野三郎は金沢一中生時代には巧みな文章力で抜きんできていたが、ウラジオストックでの語学研修もめきめき上達した。金沢からの銅・羽二重・ビールなどの売り込み使節団の通訳として名をあげ、留学資金も増額された。

1914年に彼は南満州鉄道株式会社の社費留学生となりモスクワの大学を経て、16年にはペテログラード大学文科生となった。ここで哲学と歴史に打ち込んだが、翌年ロシア3月革命に遭遇した。彼は群衆の1人として市街戦を見、続くケレンスキーの臨時政府とレーニンらの率いるボリシェビキ勢力との争乱を見た。練り歩くボリシェビキの階級間の憎しみを煽るプロパガンダを記録している。対ドイツ戦線から引き揚げてきた荒木貞夫少佐に会い、革命勢力が前線のロシア軍兵士たちへの思想浸透工作に来ていた、という話を聞いた。少佐は後に陸軍の皇道派の領袖の1人と目され、2・26事件で予備役になった。

島野は7月帰国の途につき、レーニンが権力を奪取する1月革命は見なかった。帰国後満鉄に入社、国家主義者大川周明のいる東京支社東亜経済調査局に属した。そこでペテログラード時代から準備を進めていた『露和辞典』の編纂を始めた。1928年に出版の運びとなったこの辞典は、南満州鉄道株式会社東亜経済調査局編纂とあるが、日本のロシア語学会とは関係のなかった彼と彼のスタッフとの夜を日に継ぐ努力の結晶であった。本格的な露和辞典としては明治以来3点目、収録語数は12万、用例も多い。ロシア語は外来語が多く、編纂は大変であったという。その序文は大川周明で賞賛の言葉を連ねている。

これに先立ち、1920年島野は北一輝、大川周明らと行地社を結成し、反共、反西欧の超国家主義への道を歩み始めていた。ペテログラード大学文科の同窓生のうちロシア在住者がことごとく銃殺されたという風聞を耳にしたが、ユーラシア主義

と呼ばれる西欧文明傾倒とは距離を置いたロシアの文学や哲学書の翻訳を続けた。さらに在日イスラム教徒の援助をした。ロシア留学中日本青年だということでイスラム教徒の好意を受けたからでもあるが、その宗教と生活の渾然一体に強く惹かれていた。彼は満州における軍の強制的な日本神社建設には反対した。島野の思想遍歴はいずれを目指していたのだろうか。

北一輝は島野の哲学や国家論によく耳を傾けていたという。1936年の2・26事件で死刑と決まった北からの手紙には、「20年ノ御交情何ヲ以テ謝センヤ」とあった。決起した青年将校の思想的バックボーンになった北の国家社会主義の理想が消えた時であった。島野は不起訴になったが、関東憲兵隊司令官であった統制派の東条英機から「満州国2か年居住禁止処分」を受け、松岡洋右の口利きでパリへ去った。

この頃、満州国では官僚・軍部・企業三位一体の統制経済が商工官僚岸信介らの運営で軌道に乗っていた。岸は1940年の第二次近衛内閣の時、この方法を日本に持込み新官僚と呼ばれた。このシステムの原案を作成したのは、1931年事変を起こし、満州略取に成功した関東軍参謀石原莞爾に依頼された宮崎正義であった。金沢二中出身の彼は石川県からの3人の留学生の1人で、ロシア革命のときはモスクワでの学業を終え、島野と合流していた。

1995年野口悠紀雄が「1940年体制」という著書で体制の由来を述べ、この統制システムが戦後の日本の経済成長をリードしたと指摘した。宮崎はソビエト政権による計画経済を知悉していて、石原はその知見と構想を買ったのである。

ロシア革命の現場体験や、その後の計画経済の建設が、多感な金沢出身の青年たちに、生き方や思想の原点となるものを与えたことは想像に難くない。しかし、日本の国家主義者の夢はポツダム宣言受諾で潰え、ソビエトのボリシェビキの夢も1世紀も経たぬうちに自壊した。日本の統制経済も、21世紀に入った現今、世界的な競争の中で解体されつつあることに感慨を抱かざるをえない。

正村記

#### 参考文献

「精神の旅人」ナウカ連載・米重文樹著

「露和辞典」南満州鉄道株式会社

東亜経済調査局編纂

「この目で見たロシア革命」島野三郎著

「満鉄 知の集団の誕生と死」小林英夫著

## 平成13年度一泉文庫寄贈・購入本

書名	著者	寄贈者
西村首青遺文集(3冊)	本田一杉(一中21期)選 本田泰三編	本田泰三
ゲノムが世界を支配する	中村雅美(泉丘17期)	購入
戦前・戦中・戦後航空対勤務の果報者	二口 敬(一中46期)	贈呈 二口 敬(一中46期)
女性整体師になりませんか	越田 昭(泉丘17期)	越田 昭(泉丘17期)
グッバイ股関節痛	越田 昭(泉丘17期)	越田 昭(泉丘17期)
加藤楸邨集 現代俳句の世界	加藤楸邨(一中30期)	購入
アメリカ家電産業の経営史	大貝威芳(泉丘4期)	大貝威芳(泉丘4期)
競争と戦略のグローバル化	大貝威芳(泉丘4期)	大貝威芳(泉丘4期)
金沢市街図昭和6・12・12・19年版	池 亮吉(一中20期)	斉田直行(一中55期)
金沢兼六公園之図	池 善平(池亮吉氏の父)	斉田直行(一中55期)
私の七十年	北村正夫(一中56・泉丘2期)	北村正夫(一中56・泉丘2期)
泉(次代への贈りもの)	寺田喜久男(一中54期)	寺田喜久男(一中54期)
平成抄 南秋草子句集	南 平吉(一中49期)	南 平吉(一期49期)
十桜 一中42期文集	一中42期	一中42期
加賀藩における幕末維新期の動向	徳田寿秋(泉丘12期)	徳田寿秋(泉丘12期)
美しく生きる「雨漏りにありがとう」	深川会村本喜和子(通信28期)	村本喜和子(通信28期)
本籍金沢	斉田直行(一中55期)	斉田直行(一中55期)
現代語訳「史記」全8冊	小竹文夫(一中25期) 小竹武夫(一中30期)	相坂一成(一中58期・泉丘4期)
血液型の遺伝とその応用	小松勇作(一中38期)	小松 優
変分学	小松勇作(一中38期)	小松 優
常微分方程式論	小松勇作(一中38期)	小松 優
一般函数論	小松勇作(一中38期)	小松 優
無理数と極限	小松勇作(一中38期)	小松 優
函数と数限	小松勇作(一中38期)	小松 優
特殊函数	小松勇作(一中38期)	小松 優
高校課程解析Ⅰ・Ⅱ	小松勇作(一中38期)	小松 優
積分方程式	小松勇作(一中38期)	小松 優
積分学・他34冊	小松勇作(一中38期)	小松 優

## 編集後記

金沢一中から輩出し、業績を遺された方々は、理系文系を問わず文化的資質を備えておられました。それは金沢という風土と関係があるのでしょうか。今回は露和辞典を編纂された島野三郎氏の事跡を調べました。氏は戦後の歴史学の分類に従えば国家主義者・右翼人ですが、辞典編纂や文学の翻訳、哲学の著作から見るとその範疇をはるかに越えた哲学者です。

終戦直後の学制変革の状況が分からないという方がおり、変革の渦中にいた北村正夫氏に書いて頂きました。校歌制定の経緯を述べた金子豊氏の文章は当時の泉丘高生の初々しい気持ちを表しています。

一泉も来年は110年の齢を迎えます。一中の先輩から一中の記事が減って寂しいというお手紙がありました。一中・泉丘にこだわらず記事をお寄せください。記念事業の「久遠像」は一中の先輩木村珪二氏の作品であり、その精神を現在泉丘高に生かしていくという趣旨です。 正村記

次号の広告は泉丘19期・20期(各期12万円)にお願いします。

## 「一泉」編集室

正村 健三(泉丘4期) 浅香以都子(泉丘10期)  
小林 弘子(泉丘12期)  
題字・坂野 雄一(一中54期)